
いのち。

遊崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

このち。

【ZPDF】

N1298K

【作者名】

遊崎

【あらすじ】

ある日僕が見つけた捨て猫。

それはにゅあにゅあ泣いていて、生きていた。

それを見た僕は、牛乳をあげに行きます。

でも、暫くして・・・

4月3日

今日、道端に捨てられている子猫を見ました。
4匹いて、にゃにゃにゃあ鳴いていました。
僕は、可哀そうだと思つたけれど、うちのマンションだから飼えません。
だから、明日牛乳を持って行つてあげようと思つました。

4月4日

昨日と同じ場所に行きました。
子猫は1匹減っていました。
僕はだれかが家に連れて帰つたんだろうな、と思つて少し嬉しくなりました。
家で少し温めた牛乳を薄いお皿に入れて、ダンボールの中へ入れました。
子猫が喜んでくれたので、嬉しかつたです。

4月5日

今日はもう1匹しか子猫が残つていませんでした。
でもなんだか変な感じがしました。
残つている最期の一匹は怯えた様子で、僕の後ろを見ていました。
振りかえるとそこには、大きなカラスがいました。
そのカラスは何かを食べているようでした。
よく見ると、それは何か生き物のようです。
気になつたので、僕はもつとよく見てみました。
それは、子猫でした。
お腹はつつかれて、目玉は転がり出していました。
僕は、なんだかとても悲しくなりました。

なんだかとても熱い、コントロールできないような感情が僕の中で
おこりました。

次の瞬間、僕はカラスを捕まえて、羽を引き抜きました。
カラスはびっくりしたみたいで、バタバタともがきました。

僕の手に噛みつきました。
僕は痛いと思つたけれど、手を放さないで今度は右の翼を引きちぎ
りました。

カラスはこの世の終わりのような声をあげました。

五月蠅かつたので、僕は耳を塞ぐために手を放してしまいました。
するとカラスは、骨が見えている右の翼を必死で羽ばたかせていました。
けれど、飛ぶことはできませんでした。

いい気味だ、と思いました。

そうしていると、後ろから先生が来て、「なにしてるの、血だらけ
じゃない」と言いました。

僕は、「カラスから猫を守つたんだよ」と言いました。

そしてダンボールを振り返ると、もう一羽のカラスが来て子猫を食
べていました。

あああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああ

「あの子は・・・?」

「今は落ち着いて眠つています。」

「何があつたんですか?」

「病院の敷地のすぐ外に子猫が捨てられていたようで、その猫たちに牛乳などを与えていたらしいのですが、カラスが猫を……それを見て、カラスに激怒したんでしょう。」

「病気は、悪くなつていませんか?」

「ええ、大丈夫です。」

あの子は少し、命に敏感なんでしょう……」

4月6日

猫が死んでいるのを見てから、記憶がありません。どうしてだろう、と思ったけど気にしないことにしました。僕はいま家のベッドにいます。

とても温かくて、いい気持ちです。

あの猫たちは可哀そうだけど、僕は幸せです。僕には家がって、家族がいるから。

今日はこれから検査なので、先生が呼んでいます。先生のことは大好きです。でも、僕は少し不幸です。僕には、いのちがあるから。

「日記は、これで終わっています……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1298k/>

いのち。

2010年10月11日04時27分発行